

教育プログラムの内容 山梨県立大学 1

創発デザインコース
(INNOVATION DESIGN : ID)

申請時の名称：地域デザインコース

創発デザインコース(令和6年度から国際政策学部内に設置)

現状の問題点

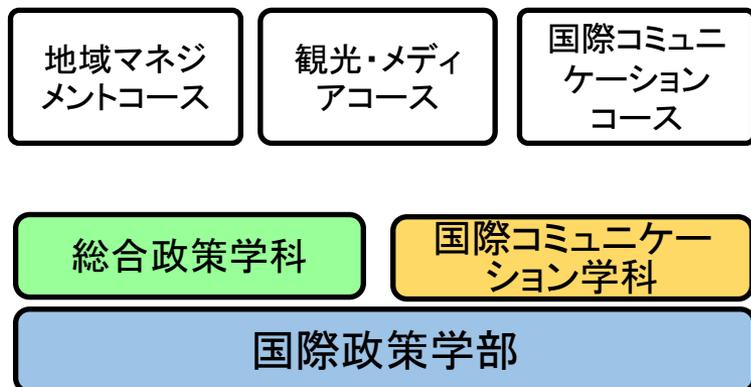
- 県内就職率30%台
 - ✓ 山梨県の基幹産業である「ものづくり」産業と疎遠
 - ✓ 情報系就職者は毎年いるが、カリキュラムには無い
- 地域学、アントレ教育の弱さ
 - ✓ Pentas Yamanashi (全学共通科目)との接続性
- STEAM教育の弱さ
 - ✓ 文系大学の弱点

R6

新コースのポイント

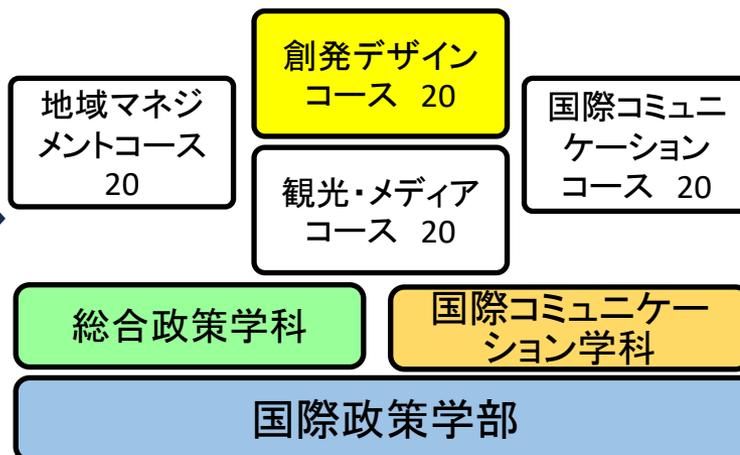
- R10年度からのメーカーズ学科(工学系新学科)を見据えたコースワークの新設
- 地域の産業界(特に製造業分野)を巻き込んだPBL科目の設置
- 実践型英語、データサイエンス科目の設置
- 高年次教養科目としてのPentas Yamanashiの活用
- STEAM教育における山梨大学との連携による新規科目・連携開設科目の活用

2学科3コース制



R6

2学科4コース制



創発デザインコースの人物像とプログラム

1. ものづくり企業に対するアレルギーが無く、新たな連携企画など価値を付加出来る
文系ものづくり人材
2. 複眼的な視点で県内の企業において**新たな発想を付加出来る、イノベーション人材**
3. 語学力やICTは当然として、**世界を俯瞰的に見る力**
4. 現状に満足せず、AIやIoTといった新たなトレンドを取り入れ、**事業化出来る人材**
5. 山梨を知り・愛し、**志を持って行動する人材**
6. 多様性に関する寛容さと**マネジメント力**

履修学生：国際政策学部から1学年 **20名**

新規開講科目：	エスノグラフィ, ビジネスエスノグラフィI, II, III, IV	(5科目)
(計25科目)	創発デザイン概論I, II, デザイン基礎, UXデザイン	(8科目)
	エンジニアリングデザインI, II, III, IV	
	プログラミング基礎, 地域データサイエンスI, II, III, IV	(5科目)
	DXと現場変革I, II, III, IV, プロジェクト演習I, II, III	(7科目)

※正式な科目名と既設の科目は、参考資料に記載があります。

想定される県内就職先：ものづくり産業, 情報産業, 農業系6次産業, ベンチャー企業
(県内就職率55%以上)

(5) 評価 第2回検討部会での主な意見

- 企業のニーズもかなり反映された素晴らしいカリキュラムだと感じた。
- 様々な調査、ヒアリング、多くの方のご意見を踏まえたものということがよく分かった。
- 県内企業の意見を吸い上げ、掘り下げて「国内外に挑む人材」を育てていくことが、企業が求めていることだと思う。PENTASは画期的なので、それが反映されるカリキュラムをお願いしたい。
- 創発デザインコースの内容とこれを活かす役割を果たすのが、MiraiプロジェクトやPENTASだと思う。
- 学生が将来のビジョンを描くため大事なことは、一つは企業について幅広くより深く知ってもらうこと。もう一つは、できれば高校生の段階から県内の企業を知る機会がたくさんあるといいと思う。
- 「県内就職率55%以上」を目指すのであれば、できるだけ企業のニーズと育成された学生のスキルがイコールになるようなカリキュラムを、企業の声を生かしながら組んでいただければと思う。

ヒューマンサービスイノベーションコース
(HUMAN SERVICE INNOVATION : HSI)

申請時の名称：ヒューマンサービスを変革する
DX人材育成プログラム

ヒューマンサービスイノベーションコース (人間福祉学部・看護学部間に令和6年度から設置)

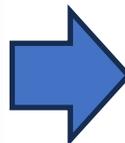
現状の問題点

- STEAM教育・DXへの対応
 - ✓ 教員構成上、STEAM・DX領域の教育が弱い。
 - ✓ 両学部で共通開講科目が存在しない
- 地域学、アントレ教育の弱さ
 - ✓ Pentas Yamanashi (全学共通科目)との接続性
- サービスの高度化に対する視点
 - ✓ カリキュラム構成上、サービス学的視点が弱い

新コースのポイント

1. 専門科目における学部の枠を超えた共通科目の設置
2. 地域の産業界（特に看護・福祉分野のDX化）を巻き込んでPBL科目の設置
3. アントレ科目・デザイン思考・STEAM教育の看護・福祉・教育分野での展開
4. 福祉・看護・教育の枠を超えたサービス学的知見の科目新設
5. STEAM教育における山梨大学との連携による新規科目・連携開設科目の活用

R6



2学部独立型



2学部横断型

R6



ヒューマンサービスイノベーションコースの人物像とプログラム

- 育成する人物像：
1. DXやロボティクス・AI利用を高効率化や負担軽減に限らず、**看護・福祉分野の高付加価値化に貢献する人材**
 2. 人間福祉学部・看護学部の学びを活用した**ヒューマンサービスの異分野への展開人材**
 3. アントレ教育、STEAM教育に基づいた**新たなヒューマンサービス開発人材**

履修学生：人間福祉学部、看護学部から1学年 **18名**

新規開講科目：**チームビルディングスキル, フィールドリサーチ**

(計8科目) **デジタル技術活用リサーチ, データマイニングとエスノグラフィー**
多分野連携イノベーション, ヒューマンサービスイノベーション
ヒューマンサービスの価値創出, ヒューマンサービスの現場変革

想定される県内就職先：**既存の福祉・看護施設, サービス業, 金融業, 将来の起業家**
(県内就職率55%以上)

(5) 評価 第2回検討部会での主な意見

- DXが進んでいっても、人が人にサービスを提供するという本質は変わらないので、その両面を学ぶことができる科目の設定になっていると思う。
- 教育や福祉の分野でも、経営という視点で「リーダーシップ」や「マネジメント力」を考えていかなければならないのではないか。
- 高校生が起業を考えていることに、ちょっと驚きと大きな期待を感じている。大学で学ぶ前から起業の気持ちがあるというのが嬉しい限りなので、その部分を伸ばしていただければと思う。
- 実際に学んだ方が施設に就職した場合、人手不足から学んだことを活かさないようなことがあるので、このコースで学んだことを活かして活躍できるような取組も併せて必要。
- 施設の経営者や管理職の意識改革はすごく大事で、いろんな連携の中で彼らの意識改革を促すような、例えば、好事例を紹介したり、施設側と学生が就職前にディスカッションできる場を作ったりすることがあれば、学生が学んだことをより現場で活かせるのではないか。
- このコースで育成される人材の就職先は、人手不足の中でヒューマンサービスを効率的に提供していかななくてはならない施設だろう。今、大学には、現場が変わっていく中で求められる人材をどうやって輩出していくのか、という難しい宿題が課せられていると感じている。